

研究協力に関するご依頼について

熊本県立大学環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻食品栄養機能学研究室での卒業研究の一環として(研究参加同意者氏名)様から研究参加の同意を得て、研究を実施いたします。以下の研究概要をお読みいただき、保護者様の立場から(研究参加同意者氏名)様の研究参加の取りやめを希望する場合は、研究責任者までお申出ください。ご連絡をいただいた場合は、研究対象者とするを取りやめます。なお、研究参加を取りやめることにより不利益が生じることは一切ありません。

【研究課題】

大学生における肌状態のセルフモニタリングが野菜摂取の動機づけならびに習慣化に寄与するか

【ご確認ください】

1. 目的

野菜の摂取量が分かる食器を配布し、野菜摂取習慣の動機付けならびに摂取維持につながるか検討を行います。さらに、肌状態を自己チェックできる機器を配布された方には野菜摂取習慣が継続しやすいかどうかについても検討を行います。

2. 研究期間と概要

研究期間:令和8年1月～令和8年8月

研究概要:はじめの3か月間に配布する食器2杯分の野菜を普段の食事に追加して食べていただきます。その間に3回の測定会ならびにアンケートを行います。その後3か月間は自由に過ごしていただき、最後に測定会とアンケートにご協力いただきます。また、肌状態を自己チェックできる機器は非侵襲性で身体的な負担が少ない測定方法ですので、安全に参加していただけるよう配慮しています。

3. 測定項目

①野菜摂取による身体への影響

- ・体組成:体重、体脂肪量および体たんぱく質量を基本として測定します。
- ・皮膚状態の計測:角質水分量、経皮水分蒸散量、皮膚粘弾性、皮脂量、皮膚色(メラニン・紅斑)、皮膚pH、皮膚表面温度(計7項目)を測定します。
- ・尿中ナトリウム比測定:随時尿により摂取した塩分濃度とカリウム濃度の比を測定するものであり、塩分(ナトリウム)と野菜等(カリウム)の摂取バランスを表す指標です。測定会時に採尿していただきます。
- ・尿中酸化ストレスマーカー(8-OHdG)測定:8-OHdG(8-ヒドロキシデオキシグアノシン)は生体内における酸化ストレスの代表的なDNA損傷マーカーとして利用されています。野菜摂取によりこの数値が改善されることが報告されており、野菜摂取の客観的な指標として使用します。測定試料に尿を使用しますが、数値の補正としてクレアチニンも併せて測定します。

保護者の方へ

②アンケート調査(ウェブ回答・調査用紙)

・健康観や日常生活に関する質問、日常的に摂取している食事の内容、野菜摂取の状況についてウェブおよび調査用紙にて回答していただきます。

4. 個人情報の取り扱い

すべての個人情報は厳守されます。測定項目に関するデータは、研究責任者がデータ処理をした後は、匿名化されたデータ(個人情報を削除して誰のものかわからないデータ)として扱います。

5. 結果の公表

研究結果は、卒業論文および卒論論文発表会、関連学会や論文として公表します。研究結果から個人を特定されることはありません。

6. 保護者からの研究取りやめの申出期限

保護者の方が、この研究への参加の取り止めを希望される場合には、2026 年 2 月 1 日までに研究責任者までお申し出ください。申し出たことにより不利益を受けることは一切ありません。

【連絡先】

研究責任者

熊本県立大学環境共生学部食健康環境学専攻 教授 友寄博子

Tel:096-383-2929 E-mail:tomoyori@pu-kumamoto.ac.jp